

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140 9 145275

本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
 FAX 03(3207)3918

発行人 内藤 留 幸
 編集主筆 竹 澤 知 代 志
 印刷所 株式会社きかんし

「それ行け！ 伝道」の主題を掲げて 新しい試みのもと、第17回千葉県信徒大会

一月十二日、西千葉教会において、東京教区千葉支区主催による第十七回千葉県信徒大会が開催された。大会が「千葉県」と銘打つのは、信徒大会の目的が謳うように、千葉支区内諸教会の信徒が一堂に会して伝道地である千葉県全体を覚えるためである。

今回は「それ行け！ 伝道」との主題を掲げて、プロテスタント教会日本伝道150周年を記念する大会として開催された。山北宣久教団議長を説教者として迎えて礼拝が献げられ、その後、それぞれのプログラムが進められた。

「それ行け！ 伝道」は著書名であるだけでなく、山北議長が一貫して訴えてきた伝道する教会論を象徴する合言葉でもある。説教者紹介の中で岸憲秀副支区長

（千葉本町）は、「プロテスタント教会日本伝道150年について教団内に様々な理解があるのは承知しているが、大会実行委員会は150年記念の年をしつかりと受け止めたうえで、二〇〇九年、千葉支区として最初の集いを開催することとした。予てより伝道する教会・教団であることを訴え続けて、150年記念についてもいち早く発言された山北議長を説教者として迎えた」と述べた。

山北議長は、一時間にわたる説教において、集った二八一名の会衆を前に、「日本伝道がこのように目に見える仕方で見られていることに励まされる思いである」と語りはじめ、150年記念について「問題がないことを日本聖公会にも確認した」として、この年



千葉支区内諸教会の信徒が一堂に会し

を記念することの意義をあらためて訴えた。伝道に支えられた宣教の豊かさを求めることこそ必要である」とした。また、「53年には、年間、十名の信徒で一名の受洗者を産み出していたが、07年度には、イースターが二回あったが、五四名で一名の誕生。受洗者を産み出す体力の低下が明らかであり、「羊が羊を産む」ことを指摘しながら信徒伝道の大切さを語った。

従来、信徒大会は、講演、分団等のプログラムを主としてきたが、ここ数年、年頭、最初の支区集会として、まず礼拝を皆で献げるようにしてきた。更に、今年はそのような新しい第一部、第三部のプログラムを取り入れた大会となった。

まず第二部では、千葉支区に奉職した宣教師が紹介された。健在の元宣教師について、それぞれの思い出、近況が写真、ビデオテープによって伝えられた。

続いて、信仰生活五〇年以上の信徒を覚えて感謝祈禱のときがはじめて設けられた。初年度ゆえ、「以上」となって、大会に出席した五〇年以上の信徒六一名が紹介され、中村征一郎支区長（東金）が感謝と祝福の祈りを献げた。

支区で奉職した宣教師、信仰五〇年以上の信徒の紹介が、これまでの150年の教会史の二コマの証しであるなら、次の二つの新しいプログラムは、150年の記念を経て、これからの教会の歴史の展望となる。

ひとつは、千葉支区では青年部が若手教職による導きを得ながら着実に活動してきた。この様子が会場に映し出された映像で丁寧に紹介された。今後の課題として、教育部との協力によ

496人の参加で初の信徒大会 東京・西南支区「教会フェスティバル」

東京教区西南支区の信徒大会「教会フェスティバル」が一月十二日、青山学院大学カウチャー 記念礼拝堂で開催された。支区としては初の信徒大会に、支区四四教会中四一教会から四九六人が出席した。

開会礼拝で説教に立った岸俊彦支区長（経堂北）は、「結ばれている私たち」と題する説教で、この礼拝堂での大学礼拝で説教した時、礼拝後、一人の見知らぬ女子大生が話しかけてくれた。ある中学で聖書を教えた生徒の一人だった」というエピソードから切り出し、「福音の種はいつ、いかなる形で実を結ぶかわからない。

「日本のキリスト教人口は1%だから、キリスト教世界は狭い、といわれるが、主の御名によって結ばれている私たちが、出会い、スタートする時、思いがけない広さを持つ」と励まし、「私たちは、主にある兄弟姉妹のネットワークによって結ばれている。二人または三人がわたしの名によって集まることには、わたしもその中にいる」とキリストは約束してくださっている」と力強く結んだ。

「伝道アヒール」をしたキリスト教放送局日本FEB C代表の吉崎恵子さんは、うつ病に悩む四九歳の男性から、初年度ゆえ、「以上」となって、大会に出席した五〇年以上の信徒六一名が紹介され、中村征一郎支区長（東金）が感謝と祝福の祈りを献げた。

支区で奉職した宣教師、信仰五〇年以上の信徒の紹介が、これまでの150年の教会史の二コマの証しであるなら、次の二つの新しいプログラムは、150年の記念を経て、これからの教会の歴史の展望となる。

ひとつは、千葉支区では青年部が若手教職による導きを得ながら着実に活動してきた。この様子が会場に映し出された映像で丁寧に紹介された。今後の課題として、教育部との協力によ



急造の牧師聖歌隊

「僕らは風、君は空」と、空をモチーフにした「教会フェスティバル」は、軽妙な語り口で支区四四教会をスライドショーで紹介。近隣の教会をいかに知らないかを改めて実感させられた。

挨拶に立った島田順好・青山学院宗教学部長は、「キリスト教学校は、それだけでは完結しない。学生が教会に繋がり、信仰を持っていくことで初めて完結する。教会とキリスト教学校が支え合うことが必要だ。大学では毎朝一〇時二〇分から礼拝を行っている。大学の礼拝だからなどと言わず、ぜひ通りますぐりに礼拝に出席して欲しい」と訴えた。



ヨセフとマリア、宿屋を訪ねる

の中で、今一度、クリスマスへの贈りものをいただいた素晴らしいときであった。西千葉教会は、JR西千葉駅のすぐ目の前にあるが、散会後、駅までの道を大会参加者と共に歩きながら、これまでの先達の伝道への感謝と、これからの伝道への展望を励まし、そして志が、参加者それぞれに新たにされていることが実感された。

（新報編集部報）

荒野の

突然の腰痛で、三日程は身動きもならなかった。十数年前の肝臓、五年前の心臓に続く今度は腰、「これで肝臓、全部そろった」と冗談を言ったら、ビビッと激痛が走った。立ち上がるにも座るにも、支えが必要（一）る。障子の棧でも良い。親指と人差し指で棧をつまむだけで、全然違う。棧を支えに立ち上がっても、棧は壊れたりしない。支えは僅かであっても十分に役立つのだ。「さん」の漢字が書けなくて、広辞苑を引いたら、「一番最初に、かばい」と、その意味が記されていた。小さな支えでも、決定的な助けは役割を果たすことが出来るかも知れない。病を癒して痛みが教えてくれた。聖書の絵師「新潮社」に登場する「リッジのサー・シリアン」：「幻視体験を綴った。神の愛の啓示」で知られる。四世紀イギリスの修道女は、主の十字架の苦しみを体現するために、「病を与え給え」と祈る。聖シリアンに倣うことなどは出来ない。「病を癒し給え」と祈りながら、「己の貧しさを思い知らされる。

（永井清陽報）



パキスタン 青木ワーカー 新生児室での診療

みんなで生きる

JOCS

日本キリスト教海外医療協力会

～キリスト教医療ミッションの現場から～② 大江 浩 (JOCS 総主事)

パキスタン

サラーム(平安を)

『守れるはずの命』を守る

二〇〇八年のクリスマスはパキスタン・ファイザラバードで過ごしました。二〇〇七年一〇月に現地赴任をした青木盛ワーカー(新生児・小児科医)の活動現場を訪れるためです。

派遣先である聖ラファエル病院(一九四八年設立)は、パキスタン独立時の難民救済を契機にできたカトリック系の産科を中心とした病院で、助産婦学校(一九五七年設立)も運営しています。

設立当初から、長年にわたり無私の働きをされた S・Dr. Elizabeth(ベルギー人)というクリスチャンドクターは「パキスタンのマザーテレサ」と称され、イスラム教徒からも尊敬を集めました(二年前に召天されました)。

同病院では年間約一八〇〇件の出産がありますが、常勤の小児科医がいない状態でした。またパキスタンは97%がイスラム教徒の国のためクリスチャンは青木ワーカーのみで他は全員ムスリムの医師という状況です。

青木ワーカーはNICU(新生児室)と小児科外来(新生児室)と二回のクリスとして週一〜二回のクリスト教育困居住区での出前診療を担当しています。訪問させて頂いたNICUには二〇人の赤ちゃんが手回りの保育器に入っています。

溢れるほどの愛情に包まれていました。主イエスの降誕の物語が重なりまふ。幼い命に青木ワーカーと看護師の真剣なまなざしが注がれます。

ただし、途上国の医療施設では医療器材が乏しく、仮にあつたとしても十分に使いこなせる人材と技術の不足という深刻な問題があります。生後二四時間以内へ召される赤ちゃんもいます。青木ワーカーは新生児に使用できる人工呼吸器が一つしかないため、治療の甲斐なく、守れるはずの命が救えないことにも直面します。ケースによっては他の病院へ紹介しても受け止めてくれないという、現実も立ちほだかります。本当に悔しいことでしょう。

「今日は残念ながら死亡した児が多かった(七名)。これらの児の治療には人工呼吸管理のみならず、循環作動薬の投与が必要なケースが多かった(聖ラファエル病院には微量輸血ポンプがないため不可)。青木ワーカー一〇月月例報告より」。

青木ワーカーから送られてくる「治療を要した新生児」の月例報告から、その厳しい状況がひしひしと伝わり、心痛みます。

同病院はシスターたちの献身的な祈りと働きによって支えられています。このたびは毎朝夕の祈りの集いとクリスマスミサにも参加する恵みが与えられました。病院の敷地内は聖霊で満たされていました。一歩外へ出れば、パキスタンの喧騒とゴミや埃、そして貧しいクリスチャンたちの受難の世界に遭遇します。劣悪な環境にありながら日々「生きるため」に生きていく人々です。

世界子供白書二〇〇八のタイトルは「子どもの生存(Child survival)」です。二〇〇六年、近年の歴史では初めて五歳の子どもの年間総死亡数が一〇〇〇万を切り、九七〇万人となった。……しかしこの成果に満足している余裕はない。毎年九七〇万もの幼い命が失われているという現実には到底受け入れられるものではなく、死亡の多くが予防可能であることを考えればなおさらである(同白書)。「これらの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである(マタイ25章40節)」

世界では一分に一人の女性が出産時に亡くなりまふ。子だけでなく母も「守れるはずの命を守りたい」、切なる願いです。様々な困難を抱えるパキスタン、小と看護師たちを祈ります。サラーム(平安を)。

ネパールでは二〇〇八年続いた王政が廃止され、かつて反政府ゲリラ活動を繰り返したマオイストの政権が樹立されました。

ネパールはヒンズー教(約八割)の国です。近年までキリスト教徒は異端者として受難の時代を過ごし、キリスト教会は信仰によって囚われの身になった人々を支援するため、キリスト教 NGO である Prison Fellowship Nepal (P.F.N) を設立しました。

P.F.N(現地での呼ばれ方)は、全ネパールの約半数の刑務所に図書館の設置や文書伝道を行い、同時に受刑者の社会復帰のための施設職業訓練も実施(受刑者の子どもたちのため)の家(Boys Home と Girls Home)を建てました。

ネパール

サンガイ・ジウナコ・ラギ (みんなで生きる)〜そして今

二〇〇八年はNCC教育部キリスト教教育週間「笑顔はどこから?」でJOCSの活動が題材に

なつたり、絵本「サンガイ・ジウナコ・ラギ(みんなで生きるために)」(文・岩村史子、篠浦千史、絵・金斗鉦)が日本基督教団出版局から発売されたり、何かとネパールづいた年となりました。

JOCSは、二〇〇八年八月にネパールへ、橋戸健次郎ワーカー(家庭医)に加えもう一人細井さおりワーカー(看護師)を派遣しました。私は同月にネパールを訪れる機会がありましたので、細井ワーカーの活動のこと、そしてネパールの状況について、少しご報告をさせて頂きたいと思ひます。

ネパールでは二〇〇八年続いた王政が廃止され、かつて反政府ゲリラ活動を繰り返したマオイストの政権が樹立されました。



青木ワーカー 出張診療の様子

「二〇〇六年、近年の歴史では初めて五歳の子どもの年間総死亡数が一〇〇〇万を切り、九七〇万人となった。……しかしこの成果に満足している余裕はない。毎年九七〇万もの幼い命が失われているという現実には到底受け入れられるものではなく、死亡の多くが予防可能であることを考えればなおさらである(同白書)。「これらの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである(マタイ25章40節)」

世界では一分に一人の女性が出産時に亡くなりまふ。子だけでなく母も「守れるはずの命を守りたい」、切なる願いです。様々な困難を抱えるパキスタン、小と看護師たちを祈ります。サラーム(平安を)。

ネパールでは二〇〇八年続いた王政が廃止され、かつて反政府ゲリラ活動を繰り返したマオイストの政権が樹立されました。

ネパールはヒンズー教(約八割)の国です。近年までキリスト教徒は異端者として受難の時代を過ごし、キリスト教会は信仰によって囚われの身になった人々を支援するため、キリスト教 NGO である Prison Fellowship Nepal (P.F.N) を設立しました。

P.F.N(現地での呼ばれ方)は、全ネパールの約半数の刑務所に図書館の設置や文書伝道を行い、同時に受刑者の社会復帰のための施設職業訓練も実施(受刑者の子どもたちのため)の家(Boys Home と Girls Home)を建てました。

子(子ども)は Peace Loving Children Home と呼ばれています。細井ワーカーはそのうちの Girls Home (ボカラ)で活動を行う予定になっています。

受刑者の子どもたちはかつて、刑務所で育てられていました。ある受刑者は無実の罪で、またある人は政治的な理由で投獄されたというケースもあつたと聞きます。受刑者への差別偏見

もさることながら、その子どもたちが置かれていた苦難の状況に胸が痛みます。P.F.Nのニュースレター(08年七月八月号)は、「三三人の受刑者の子どもたちが里親支援プログラムをサポートを受けて、教育を受ける機会が与えられている。計九人の子もたちが大変優秀な成績を収めている」など、それぞれの物語を紹介しています。

滞在中に、ネパール日本語聖書集に参加する機会が与えられました。JOCSのワーカーはその温かい交わりに支えられて暮らしつつ活動しています。JOCSの動きも「祈りの課題」として加えられ、遠く離れた異国の地にあつてクリスチャンの篤い祈りに支えられてきたのだ、ワーカーはその群れの中にいるのだと、感謝の気持ちで満たされました。

受刑者とその家族との共生(ネパールで新しいユニークな「みんな生きる」ための働きが始まる)と聞きます。貧しく小さくされた人々と向き合つて、



ネパール 橋戸ワーカー 山道を行く

滞在中に、ネパール日本語聖書集に参加する機会が与えられました。JOCSのワーカーはその温かい交わりに支えられて暮らしつつ活動しています。JOCSの動きも「祈りの課題」として加えられ、遠く離れた異国の地にあつてクリスチャンの篤い祈りに支えられてきたのだ、ワーカーはその群れの中にいるのだと、感謝の気持ちで満たされました。

受刑者とその家族との共生(ネパールで新しいユニークな「みんな生きる」ための働きが始まる)と聞きます。貧しく小さくされた人々と向き合つて、

滞在中に、ネパール日本語聖書集に参加する機会が与えられました。JOCSのワーカーはその温かい交わりに支えられて暮らしつつ活動しています。JOCSの動きも「祈りの課題」として加えられ、遠く離れた異国の地にあつてクリスチャンの篤い祈りに支えられてきたのだ、ワーカーはその群れの中にいるのだと、感謝の気持ちで満たされました。

受刑者とその家族との共生(ネパールで新しいユニークな「みんな生きる」ための働きが始まる)と聞きます。貧しく小さくされた人々と向き合つて、

滞在中に、ネパール日本語聖書集に参加する機会が与えられました。JOCSのワーカーはその温かい交わりに支えられて暮らしつつ活動しています。JOCSの動きも「祈りの課題」として加えられ、遠く離れた異国の地にあつてクリスチャンの篤い祈りに支えられてきたのだ、ワーカーはその群れの中にいるのだと、感謝の気持ちで満たされました。

感謝と奮起

伝道 200 年に繋ぐ

「キリストこそ我が救い」

日本伝道150年記念初週祈禱会

二〇〇九年一月五日(月) 会に延べ五〇〇名、十二教...



銀座教会、少人数のグループに分かれての祈り

来御言葉の種が播かれた。 神奈川に上陸した宣教師...

東京信徒会の呼びかけで 各教会の信徒により、プロ...

千葉支区 格差が大きい中で豊かな交わりを持つ

中村征一郎

千葉支区では一月十二日(月) 成人の日(信徒大会)を持つ予定と...

教区 コラム

千葉支区でお働きいただいた宣教師の方々の記念品贈呈 信仰五...

(出席七〇名) 讃美歌：21四〇五、聖書：...

(出席六〇名) 讃美歌：21五七、聖書：マ...

(出席八四名) 聖書：列王記下5章1節、...

(出席五七名) 讃美歌：三五二、聖書：マ...

(出席一〇六名) 招詞：ローマ信徒への手紙...

新機構下、重大な責任を果たして

第8回宣教師人事委員会

去る一月九日(金)、第 八回宣教師人事委員会が開...



委員、幹事が祈りをあわせて協力

となった。当委員会の主な 議題は、人事に関連するも...



東京山手教会、6日目、祈りと讃美も最高潮に

データを補足すれば、信 徒はもとより多くの教師の...

0年を記念する目的を、「日 本伝道150年を迎えるに...

消息

林 芳助氏(隠退教師) 一昨年十一月二十五日、逝...

及川 清氏(隠退教師) 昨年十一月十九日、逝去...

お知らせ

☆東京信徒会講演会 時：2月28日(土) 14時...

公募

WCC青年プログラム ◎スイスのジュネーブ...

牧師のパートナー

間と違うことを良しとしていたのです。あることから、どうしても教会に行かなくてはならないきつかけが与えられました。そして、夫が献身へと導かれ、同時に私は短大へ。幼稚園教諭になり、夫の神学校卒業まで働きました。その間、教会の方々が様々な方にお世話になりながら、困ることなくやっていくことが出来ました。必要な時に必要なものは全て神様が与えてくださったのです。

奇しき恵みの場所

坪内佐知子
(富山新庄教会員)

私共は昨年四月、富山新庄教会に参りました。教会報での紹介のためのインタビューで「キリストとの出会いは？」と問われ、考えました。いつだったのか？改めて考えるとほつきりしないのです。

成行きで洗礼を受けた印象の私。夫が献身を決意し、教会に赴任した時から、夫が私の牧者になりました。牧師館での生活、み言葉を通してイエス様が私の救い主であることをほつきりと確信したのです。けれど、その時が来ない？そうではないのでしょうか。ずっと以前に既に出会っていたけれど、私の方に自覚がなかったのだと思います。イエス様に背中を押され主の舟に乗り、ずーっと運ばれてきたのです。常にあたふたしていたけれど、いつも主から示し続けられてきたのです。教会とは縁遠い世界にいた私が、今教会に住んでいることは、まさに奇跡です。奇跡の連続で今の私があります。

とつても様々な理想がありま。そのことが壁となつて逃げ出したいくなることも。でもその度に神様へと向きを変え、自分を省みることで出来ました。



富山で初めての冬、坪内克浩牧師と

委ねた時、思いもかけない方法で導いてくださることを知りまし。また、牧師の妻でなければ毎週の礼拝の恵みに与れたかどつかわかりません。それが恵みだと気づいたかどつかさ疑問です。自分勝手に生きていた私を神様は逃がられない場所に置いてくださ。またそこは、それだけでなく、私にとつて奇しき恵みの場所でもあったのです。

主を求めて教会へ来る方々の笑顔に出会い、分かち合える喜び。昔の私だったら平凡に感じたかもしれないような、当たり前の語りや笑顔に、今は心からの平安を感じ、感謝の生活ができます。また、決して立派な人ではないけれど、主に頼り忠実であるとする夫。その傍らに居ること、共に歩めることは最も大きな恵みです。「よい牧師夫人になろうとする」とは、一番の信徒になりなさい。敬愛する先輩夫人から、ご自身大切にされている言葉として教えていただいた言葉です。羊飼いの羊として、一番近くで声を聞いて、たまに(?)羊飼いのおしりをこすく羊、羊飼いの健康を管理する羊でいようと思えます。そして、他のたくさん羊と共に、主を賛美し、全て委ねて感謝して生きていきたいと思えます。

隠退教師を支える運動 西東京教区推進座談会



二〇〇九年一月九日(金)十四時から十六時一〇分まで、西東京教区国立教会で「隠退教師を支える運動・西東京教区推進座談会」を開催した。

多田信一委員長と高橋豊年金局長の挨拶。今年三一年目の活動に入った「隠退教師を支える運動」の目的と活動報告。教団退職年金制度の内容・現状の課題について兩名から説明があった。

そのあと、滝川英子委員の司会で座談会に入った。まず出席者全員で、「それぞれの教会に召命によって遣わされ、み言葉の役者として伝道と牧会に専心されている教師に、私たちは心から感謝いたします。後略」、「私たちは、それぞれの教師が長年にわたり伝道と牧会に全生涯を捧げられ隠退されてからの生活を少しでもお支えしたいと念願しております。このこ

ひととき

平原なつこさん

神の御手の業を留めるために



1981年、宮崎生まれ。東京芸術大学大学院生。小岩教会員。

なつこさんが博士審査展に提出した三作品のうち、二つには「ルアハ」という題がつけられている。ルアハは、「存じのよ」に「ルアハ」の風、息、さらさらと言葉だ。また今一つの作品には「燃える柴」という題が付けられている。

彼女が手がけるのは彫刻、主として木を用いる木彫である。木彫と言っても、この小さな体どこにこれほどのエネルギーが秘められているのか、と思わせるほどに大きなものである。二つの「ルアハ」作品のうちひとつは、大人が三、四人でやっとならざるにできるほどの樟の木の丸みを生かし組み合わせて、風に煽られるカーテンを振り出してみせる。また今ひとつは、燃える柴もまた、燃え尽きぬように燃え尽きてしま

つ、「ルアハ」は、直径一・二メートルの樟の円盤の上に約九百本もの、これもやはり木から彫り出された草が立てられてあつて、この上を一陣の風が吹き渡ってゆく様子表現する。

本来、僅かばかりの風などではたわまないはずの木の木質部。しかし、この木が地に根を張って聳えていたであろうときには、枝先、葉先は吹き渡る風にさわさわと身を揺らしていたであろう、そのしなやかさを、この固い木質部で表現したユニークな作品である。

うである木によって柴を輝かせている姿をも表現している。彫刻は短時間で作ることでできない。時間をかけて彫り上げてゆく。一鑿一鑿、木と取り組むこの長い時間、なつこさんがしばしば問うことは、十戒の中の彫像禁止の戒めと、また、ルターの「キリスト者の自由」の中で出会った神の僕としての在り方である。前者は自らの務めを否定的に問い、後者はこれを肯定的に問う。神によって生かされている者として、彫刻といふこのスキルをもつて、神に仕え、人に仕えるにはどうしたらよいか。博士としての歩みが始まることとしている。

「黙秘権を使ってもいいですか」と少年は言った。少年院における面接のときである。彼は初めての面接で、随分と緊張しているようだった。あなたを取り調べるのではなく、あなたの今後のことについて話し合つたよ」と述べた。少年院では篤志面接委員を担っている。面接では少年達が将来について積極的に質問してもらいたいのである。しかし、多くの場合、こちらから話しかけないと口をつぐんだままである。何回かの面接で、ようやく心を開き、少しずつ話すようになる。当然、将来につ

少年院で

「黙秘権を使ってもいいですか」と少年は言った。少年院における面接のときである。彼は初めての面接で、随分と緊張しているようだった。あなたを取り調べるのではなく、あなたの今後のことについて話し合つたよ」と述べた。少年院では篤志面接委員を担っている。面接では少年達が将来について積極的に質問してもらいたいのである。しかし、多くの場合、こちらから話しかけないと口をつぐんだままである。何回かの面接で、ようやく心を開き、少しずつ話すようになる。当然、将来につ

いは不安であり、相談を持ちかけてくるのであった。院内の生活は刑務所より緩やかであるが、やはり厳しい。やたらに雑談はできない。まして、自分から無理解されたいと思っている彼なので、少年を受け止める存在がおられることを示した。そして、彼ははらはらと涙を流した。そして、その後は堰を切ったかのように、自分について話すのであった。まさに出会いが導かれる。

私を受け止めてくれる存在を説教で取り次いでいるのであるが。(教団総会書記 鈴木伸治)